

専修学校における学校評価ガイドラインに示された評価項目に沿って実施された自己評価に対して、下記日時に学校関係者評価会議を開催し、評価を行った。

■学校関係者評価会議

開催日時 2021 年 6 月 24 日(木) 16:00～17:30

開催場所 大阪情報コンピュータ高等専修学校

■学校関係者評価委員

- ・自己評価関係者 校長、学校法人常務理事、教頭、教務主任、入試広報主任
- ・教育関係者 科学技術学園高等学校大阪分室長、大阪市立桃谷中学校校長
- ・卒業生 第 26 期卒業生
- ・在校生保護者 2 学年生徒保護者

■自己評価に対する学校関係者評価及び意見

1. 学校の教育方針

本校は教育基本法および学校教育法に従い、中学校における基礎の上に、一般的な教養を高めるとともに情報処理技術に必要な専門知識と技術を習得させ、生徒の人格の陶冶を図ることを目的とする。
また、①コンピュータ教育を中心に学力の向上をはかる。②一人ひとりの生徒を大切にす。③いじめ・差別・暴力を許さない豊かな人間性を身につける。④確かな進路を選択する。の 4 点を教育方針とし、目指すべき学校像を「コンピュータ教育と資格の OIC と呼ばれる地位を確立する」こと、育成する生徒像を「社会の発展に資することができ、多様な価値観を認め、自律的に活躍できる人材」とする。
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 各種検定試験の合格者の増大を図り、生徒の創作意欲を育て作品制作力の向上を目指す。

② 進級率の向上を目指す。

③ 要支援生徒や不登校の経験を持つ生徒の学校への定着を図る。

④ 出席率の向上を目指す。

⑤ 進路指導を強化する。

⑥ 教職員の学校運営力向上と教員の教師力向上を図る。

⑦ 教育環境の更なる整備を目指す。

⑧ 生徒募集の目標を達成する。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標	自己評価	学校関係者評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校における職業教育その他の教育指導等の特色は何か ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	① 現状と課題 ・本校の教育方針、教育指導の特色、および目指すべき学校像、育成する生徒像等はパンフレットやホームページへの記載はもとより、オープンスクール・学校説明会を通じた生徒募集段階から入学後の日常の場面において生徒・保護者・教員に周知されていると言える。 ・目指すべき学校像、および育成する生徒像について協議を重ね内容を深めてきた。 ・2020 年度はボーカロイド・ムービーコース新設による新 4 コース開始から 4 年目を迎え、魅力的なコース制カリキュラムを編成して授業内容を充実させるとともに、5 月に始まったオンライン・ライブ配信授業および 2 学期からのハイブリッド型授業を通じて授業内容に工夫を凝らし、教育の質確保に努めた。 ② 今後の改善方策 ・目指すべき学校像および育成人材像について内容を深めていく。	・自己評価結果は適切である ・目指すべき学校像、育成する生徒像についてその実現の度合いについて引き続き吟味していく必要がある。
(2) 学校運営		
・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	① 現状と課題 ・年度当初に事業計画を策定し、学期ごとの総括も含め年間を通じて P D C A サイクルに沿った運営が行われている。なお、運営全般を通じて常勤教職員全員が関わり、校務分掌に従って目標を理解し役割と責任を果たしている。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により休校措置やオンライン授業実施、各種学校行事の中止などの影響が出たが、グループ校である大阪情報コンピュータ専門学校との合同による対策会議を年間 5 1 回開催し、情勢認識を共有しながら感染予防対策などを策定し運営にあたった。 ・教育活動等に関する情報は自己評価報告書、および学校関係者評価報告書をホームページ上で公開している。 ・教務システムの効率化に向け、改善作業を継続している。 ② 今後の改善方策 ・教務関連システムの効率化に向けた改善作業を更に進める。	・自己評価結果は適切である ・桃谷中学校では 2020 年度の経験を土台に今年度は全ての教員がそれなりに配信までできるようになった。学校現場の歩みは止められない。教員は子どもたちへの指導と自分たちの学びを両立した。ピンチがチャンスになったと言える。 ・コロナに関する会議を 51 回もしたとあるが本当に熱心だと感じる。
(3) 教育活動		

・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか	① 現状と課題 ・教育理念・教育方針に沿った形で適切な教育課程が編成されており、事業計画において学年及び4コース制の特長と内容を年度ごとに更新・確認している。教育課程の実施にあたってはすべての科目のシラバスを作成し、教科チーフを中心に適宜教科会議を持って進度・内容をチェックし、2学期および学年末に全体会議を開催して実施状況を確認した。 ・1学期のオンライン授業、2学期以降のハイブリッド型授業を通じて年間合計802時間の授業時間を確保した。 ・コロナ禍に対応したハイブリッド授業においては従来からの全学年にわたる分割授業、習熟度別授業（検定受験級別授業含む）、コース別授業、選択授業、男女別授業などの少人数制授業をベースとして授業ごとの対面受講人数、オンライン受講人数を2名から26名とし、PC実習を伴う専門科目などはリポート授業とするなど授業内容に工夫を凝らし、教育の質確保に努めた。 ・全学年でキャリア・デザインの授業を実施し、社会常識の習得と卒業後の進路を展望する上で修得すべき勤労観、職業観を育成している。 ・コロナ禍の中、例年実施してきた常勤教員による全講師対象の授業点検は実施できなかったが、オンライン授業およびハイブリッド型授業に関して生徒・保護者から適宜アンケートを取り教科指導にフィードバックした。また、全生徒による「授業アンケート」を2学期末に実施し授業評価の参考とした。 ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定に関しては、年度当初に「スクールガイダンス」を全生徒に配布し、その中で基本的な基準を明示している。 ・検定試験合格者の増大を方針として掲げ、年間合格目標を立てて指導にあたっている。校内で実施される検定試験は日常の授業において指導されている他、検定対策補習も年間計画を立てて実施している。 ・ICT活用力量の向上を図るため常勤教員が研修会に積極的に参加した。また、オンライン授業・ハイブリッド授業実施にあたりICT機器の操作やデジタル教材等の準備・使用方法などに関する研修を実施し、授業担当者のスキル向上を図った。 ・関連分野における研修・指導力養成については教員ごとに分野と目標を定め、研修教材を準備して基本的に自己研修として実施しており、業務遂行上の研修については基本的に日常業務の中で指導している。 ・関連分野の専門的な指導力を有した教員を継続して確保していく必要がある。 ② 今後の改善方策 ・年間を通じて教員採用に関わる広報を行うなど、優秀な人材と接点を持つ機会を増やしつつ、現職教員については指導力強化に向けた研修等の取組を活性化していく。	・自己評価結果は適切である ・実習授業は2週で1サイクルの進捗であり、教育成果を確保するためにはオンライン授業での教え方も研究すべきである。 ・文系の大学等、双方向での授業は皆無でオンデマンドやプリントを配って終わり程度に近い授業もあると聞く。本校はコンピュータ系であり専門家がいたため一定程度教育成果を上げることができたと思われる。大阪情報コンピュータ専門学校では自宅でも学校で同じように学べるように通信環境を整えソフトウェアもすべて用意して実施した。初歩リテラシーを自分でやることで自主性を育むことができた。入学式ができずかわいそうな側面もあったが力量的には伸ばすことができた。 ・生野区地域では小中一貫が進んでいて小中9年を見通した系統的な教育が求められている。桃谷中学校は4つの小学校から入学する為4つのグループに分けて、研修も小学校と共同で進めており全員に課している。大きな柱は授業力である。OICではコロナ禍で出席率が上がったとあるが桃谷中学校も同様である。集団になじめない子もオンラインでつながることが楽しくて参加できる場合がある。オンラインで個別指導をしたりもする。その生徒たちは学校が再開になるとまたこもっている。一人ひとり学び方が違う。その子に応じた学びを多様に提供するのが大事だと考える。 ・生徒は学校に飢えていると感じた。同じ空気を味わう対面授業も大事だ。休校は初めての経験だったが決して無駄にせず今後に役立てていくべきである。
（4） 生徒指導等		
・基本的生活習慣の確立のための取組が行われているか ・生徒の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援など）が行われているか ・生徒・保護者からの相談体制が整備されているか ・進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか	① 現状と課題 ・オンライン授業においては通常の時間割通りのライブ配信・双方向型授業を実施し、基本的生活習慣の確保を心掛けた。ハイブリッド型授業では、各クラスのオンライン授業対象者・対面授業対象者を含めた月間出席率は90%から97%と高く、不登校生徒の授業参加を可能にしたという点においても一定の評価ができる。 ・単車に関しては「3ナイ運動（①単車の免許を取らない。②単車に乗らない（乗せてもらわない）。③単車を買わない）」を実施しており、入学時点から生徒・保護者に周知徹底を図っている。 ・発達障がいをはじめとした要支援生徒について教職員全体で情報を共有し、その上で、7種類の支援種別を設定して担任による日常の学校生活を中心とした指導や、スクールカウンセラーによるカウンセリング（2020年度は6名を対象に計92回実施）を中心とした指導を行うとともに、ケース会議を実施し（2020年度は計7回、対象生徒3名）教職員全体での対応方法などを確認してきた。特に新入生については配慮を要する生徒の資料を4月初旬に作成し、全教職員が共有して指導にあたった。 ・不登校生徒の保護者の参加による「O i cカフェ（不登校を考える会）」を2学期以降計4回開催し、不登校生徒の状況把握と状況改善を図るとともに、保護者間の意見交流・親睦の場とした。 ・進学・就職に係る支援については進路指導部がキャリア教育と連携する形で学年ごとの課題を設定し、当該学年と協力しながら進めたが、コロナ禍の影響を受け、具体的な取り組みは例年より時期が遅れ気味にならざるを得なかった。3学年対象の進学補習・就職補習に関しては全面オンライン授業終了後の8月から実施し、2学年対象の「キャリア補習」に関しては3学期に実施した。また、キャリア・デザイン授業においては2学年を対象に生野税務署による「租税教室」を実施した。 ・年間4回の人権教育に関連した外部研修会に延べ4名の常勤教員が参加した。 ・要支援生徒への対応など継続して体制を整備していく必要がある。 ② 今後の改善方策	・自己評価結果は適切である ・子どもの様子が気になるということはある。コロナは怖いという気持ちもあるため、登校しなくてもいいオンライン授業はありがたい反面、保護者の方のアンケート集計を見たところ通信制に入学させたわけではないという厳しい意見もあり、自分もやや複雑な気持ちである。子どもが中学校時代不登校を経験しているため登校しなくていいとなると再発の不安がある。 ・OICカフェに数回参加したが、先生に連絡して聞くまでもないけれどちょっとした気になることがある時によかった。コロナでOICカフェが実施されていないがオンラインで実施してはどうか。

	・要支援生徒に関するケース会議については会議を定例化していく。	
(５) 特別活動等		
・クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか ・保護者会等と連携した活動を推進しているか	① 現状と課題 ・コロナ禍の中、生徒の健康と安全を最優先させるため、クラブ活動および特別課外活動は基本的に中止とした。 ・２０２０年度初めての取り組みとして「全国高校eスポーツ選手権」に参加するため３学年を中心に「eスポーツ部」を構成し、３回戦まで勝ち進むことができた。 ・あらゆる機会を通じて学校と保護者、および保護者間の親睦を図っている。 ・生徒の課外活動等に関しては新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し当面慎重な対応が求められる。 ② 今後の改善方策 ・生徒の健康と安全を最優先とし、実施可能な課外活動に対しては支援していく。	・自己評価結果は適切である
(６) 学修成果		
・進学率や就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	① 現状と課題 ・進路指導部と３学年担任団が連携して進学率・就職率の向上に取り組んだ。大阪情報コンピュータ専門学校に３５名が進学し、１３名が就職した。 ・検定試験においてはコロナ禍での対面による受験指導の不足が影響し、情報処理検定、英語検定、簿記検定、ビジネス文書実務検定の４検定で２２９名の合格者となり、前年度を下回った。４検定以外では３年生１名が Microsoft Office Specialist Master に合格した他、M I D I 検定試験１９名の合格者を出した。 ・作品制作の分野では、校内展示会に２２１作品、科学技術学園高等学校（科技高）主催の美術展に９作品を出展した他、コロナ禍により Web イベントとなった「まんが甲子園増刊号」や「第５回北のまんが大賞」などに積極的に応募した。また、生野税務署の確定申告ポスターに４年連続で採用された。 ・一人ひとりを大切にするという教育方針のもと、不登校生徒や低学力生徒など進級困難生徒に対しての指導が展開されている。また、生活指導上の問題が起こった場合においても粘り強く指導を行っており、これらの取り組みを通じて退学率の低減が図られてきた。 ・グループ校である大阪情報コンピュータ専門学校と姉妹校である大阪経済法科大学への進学者については定例的な情報交換の機会を持ち、進学者の資格取得状況などの把握に努めている。 ・生徒を対象とした進路講演会に、社会で活躍する卒業生を講師として招き、在校生の進路選択に活かしている。 ・就職に関しては依然厳しい環境にあり、今後も就職率向上に向け取り組みを強化していく必要がある。 ② 今後の改善方策 ・高等教育機関への進学率を向上させ、将来の専門分野への就職につなげていくことを基本としながら、「高校」新卒としての就職活動にも力を入れていく。	・自己評価結果は適切である ・検定試験についてはコロナ禍の影響によりやむを得ないとはいえ、前年度を下回ったことは残念な結果である。 ・対面授業がない場合、生徒が互いに切磋琢磨するという雰囲気作りにくい側面がある。友達が１級に合格したことで刺激を受けるなど、友達との励まし合いやコミュニケーションが得にくい。難しさを実感するが対面とオンラインの良さをうまく組み合わせて検定対策をすべきである。 ・オンラインでモチベーションをどう保っていくかが課題である。
(７) 生徒支援		
・生徒に対する経済的な支援体制は整備されているか ・生徒の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・生徒の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	① 現状と課題 ・生徒・保護者に対する経済的な支援として、利用可能な奨学金について案内し、また、授業料についての相談に応えるなど柔軟に対応してきた。 ・１学期の全面オンライン授業開始にあたり、通信環境整備支援として在校生全家庭に一律３万円の支援金を支給した。 ・新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言発出等の動向を受け、生徒に対する健康診断は安全を最優先して４月、８月、１０月の３期に分散する形で実施した。健康管理に関してはコロナ対策を基軸に本校で策定した感染予防マニュアルに基づき、「健康観察シート」を活用しつつ、必要に応じて専門医療機関と協議して対応してきた。 ・コロナ禍の中、全生徒が参加する学校行事（球技大会、校外学習、体育祭、文化祭、ボウリング大会、芸術鑑賞）はもとより、希望参加型の課外活動（夏季ＯＩＣキャンプ、冬季スキーキャンプの）も中止を余儀なくされた。 ・不登校や生活指導上の問題行動においては生徒の生活環境が影響している場合も多く、クラス担任を中心に積極的な家庭訪問を実施する中で状況を把握し、保護者と連携してその改善を図ってきた。 ・卒業生の多くが進学する大阪情報コンピュータ専門学校（専門課程）との間で定期協議を持ち、教育連携、進路指導連携を進めている。 ② 今後の改善方策 ・グループ校である大阪情報コンピュータ専門学校（専門課程）との高専連携を更に深め、専門教育、キャリア教育担当者間での情報交流と論議を活発にしていく。	・自己評価結果は適切である ・子どもは２年生になって幸い欠席はない。ハイブリッド授業期間もあって毎日登校しなくてもいいのがちょうど良かったのかもしれない。ただ、行事が全くないのは残念。少人数でも何かできないかと感じている。
(８) 教育環境		
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・防災に対する体制は整備されているか	① 現状と課題 ・専修学校設置基準に基づき、生徒が学習に専念できる教育環境が整備・維持されている。 ・新型コロナウイルスの感染防止対策として４月当初には玄関ホールに体温測定用サーマルカメラを設置し、教職員の業務スペースおよび教室内のすべての生徒用机には飛沫拡散防止シールドを設置した。密閉・密集・密接の３密回避と生徒・教職員および業者による徹底した消毒体制を整え、感染症防止のための教職員・生徒・保護者に向けた啓発と雰囲気醸成のため掲示物を貼付し案内・説明に努めた。このような取り組みを通じて年間を通じて生徒、教職員ともに感染者が出なかった。 ・２０１９年度から２０２０年度に実施した校内全域のＬＥＤ照明更新工事が完了し、２０１２年度から２０１９年度に実施した一連の校舎改修と合わせ学校全体としての改修が完了し、教育環境が大きく向上した。 ・２０１７年度の第一実習室更新、２０１９年度の多目的ホール整備及び普通	・自己評価結果は適切である ・特に新型コロナウイルス感染症対策としての環境整備に努めたことは評価できる。 ・ハザードマップ上では浸水の心配はない地域であるが、油断せず安全を第一に考える必要がある。

	教室のプロジェクタ接続無線化および校内全教室のHDMIハイビジョン化など一連の実習環境整備に続いて２０２０年度は第二実習室を更新し４コース制カリキュラム実施のための環境を整えた。 ・消防計画に基づき、１２月１７日、消防機器点検とともに全教職員による消火訓練および避難誘導訓練を実施した。 ② 今後の改善方策 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、政府・大阪府の対応を踏まえ適切な感染予防対策を講じる。 ・２０２１年度・２０２２年度の教育環境整備を検討し実施していく。 ・大規模災害を視野に入れた避難訓練（防災訓練）の内容について検討していく。	
（９） 生徒の受入れ募集		
・中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか ・生徒募集活動は、適正に行われているか ・生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか	① 現状と課題 ・中学校等に対してはパンフレット、Webサイト等を通じて、本校の教育方針、４コース制カリキュラムと内容、進路状況、国・府の助成制度等を網羅した資料を作成し丁寧な情報提供を行っている。 ・本校定員を確保するべく適切な生徒募集活動を行ってきた。オープンスクール実施にあたっては適切な新型コロナウイルス感染症対策をとった。 ・入学金・授業料・施設設備費などの学納金に関しては教育内容や教育環境に照らして妥当であるかを検討し決定している。 ・中学校等に対するより分かりやすい情報提供の方法を引き続き考案していく必要がある。 ② 今後の改善方策 ・多様な媒体および機会を利用した情報提供の方法を検討していく。	・自己評価結果は適切である ・コロナ禍においてもオープンスクールが実施できたことがよかった。桃谷中学校も縮小して行事を行った。体育祭も中３の保護者のみ参加可とし生徒との接触ができないようにした。競技内容も３分の２にして競争ばかりだったが今年度もどんなに小さくても実施したい。
（１０） 財務		
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか	① 現状と課題 ・学生生徒等納付金収入を基礎とした学校の財務基盤は中長期的に安定している。量入制出の原則に基づき、教育環境の整備・充実を進めると同時に、徹底した業務の見直し・経費節減を図っている。 ・毎年１０月より、予算編成事務局の下で次年度の事業計画案と予算案の策定を進め、３月に評議員会への諮問と理事会の承認を経た上で、厳格な予算執行を行っており、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。 ・学校法人及び学校の会計は、学校法人会計基準に則り、適切に処理されている。私立学校法第３７条第３項に基づく監事の監査と、私立学校振興助成法第１４条第３項に基づく独立監査人（公認会計士）の監査を受けており、会計監査は適正に行われている。 ・収支計算書・財産目録・監査報告書等を学校のホームページに掲載している。また、私立学校法第４７条第２項に基づき、利害関係人から請求があった場合には、計算書類等を閲覧に供する体制を整備している。 ・引き続き入学者の安定的確保と、更なる業務の見直し・経費節減を進めることが課題である。 ② 今後の改善方策 ・課題を解決するため、創意工夫を更に進める。	・自己評価結果は適切である
（１１） 法令等の遵守		
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか	① 現状と課題 ・教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準をはじめとする各種法令を遵守している。 ・２０１７年に更新した「情報セキュリティ規定」、および「いじめ防止対策基本方針」内の「ネットを使ったいじめの未然防止」の規定に基づき、教職員および生徒に対して個人情報の取扱いに関する留意点について確認し、管理の徹底が図られている。 ・自己点検・自己評価は２００８年度から独自に実施してきており、２０１１年度からは学校関係者評価とともに公開している。 ・自己評価および学校関係者評価に基づく問題点改善を更に進める。 ② 今後の改善方策 ・自己評価体制およびPDCAサイクルを更に定着させ、着実な問題点改善につなげていく。	・自己評価結果は適切である
（１２） 社会貢献・地域貢献		
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	① 現状と課題 ・生野税務署の確定申告ポスターに４年連続で採用され、同ポスターは生野区内約１５０ヶ所で掲示された。 ・大阪府下の中学校で実施された「職業講話」等で、ゲーム制作等コンピュータ関連の職業について「出前授業」を行い、中学校のキャリア教育の取り組みに協力してきた。 ② 今後の改善方策 ・情報教育関連の講習会について大阪市立中学校情報教育専門部会委員等と意見交換していく。	・自己評価結果は適切である ・確定申告啓発ポスターは地域にとっても良いことだし生徒にとっても自分の作品を発表する場となる。 ・校外から依頼を受け貢献できることが生徒の励みになっている。町内会からのゴミ捨て啓発ポスターも本校生徒のデザインで貼り出された。

■学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染症の影響が各分野で現れたが各評価項目は概ね「ほぼ適切」以上の評価であった。今後も本校における建学の理念、教育基本方針および「目指すべき学校像」「育成する生徒像」を土台としつつ、学校関係者評価に基づく課題等の改善を進めていく。